

2021年9月7日

辺野古・高江を守ろう！NGOネットワーク
国際環境NGO FoE Japan
「ヘリパッドいらない」住民の会
美ら海にもやんばるにも基地はいらない市民の会

沖縄島北部（やんばるの森）の世界自然遺産登録地に関する
環境省・防衛省への質問書

沖縄島北部（やんばるの森）が世界自然遺産に登録されました。これにより、日本政府はやんばるの森のかけがえのない生態系や生物多様性を保護する国際的な責任を負ったこととなります。そうした趣旨で以下質問いたします。

1. 北部訓練場での訓練について

北部訓練場と自然遺産登録地は、地図上では長く曲がりくねった境界線を共有しているが、「やんばるの森」としては連続した亜熱帯性常緑広葉樹林である。北部訓練場におけるオスプレイなどによる低空飛行は、訓練場内および連続する自然遺産登録地に生息するノグチゲラやヤンバルクイナなどの貴重な野生生物に大きな影響を与えると考えられる。また、訓練場に隣接する高江などの集落上空を低空で、夜間にも頻繁に飛行するため、騒音や低周波音、墜落の恐れが近隣の住民生活の大きな脅威にもなっている。

- 1) 米軍訓練が生態系や野生生物に与える影響をどのように評価しているのか。
- 2) 低空飛行について、米軍側に中止を求めるなどの措置はとらないのか。
- 3) 調査地点、期間、方法など、騒音モニタリングはどのように実施されているか。
- 4) 直近1年間の騒音レベルについてデータを開示されたい。

2. 北部訓練場と自然遺産登録地の境界について

北部訓練場と自然遺産登録地は連続した森林地帯で、その境界線が入り組んでいることや目視できる物理的境界線が存在しないことを踏まえると、北部訓練場で訓練する兵士やオスプレイヘリコプターなどが偶発的に、あるいは訓練の形態によっては境界線を越えてしまう可能性がある。北部訓練場では、地上では、訓練用弾（空砲）を使用するジャングル戦闘訓練が行われているため、多数の兵士による森林内の踏み荒らしや連続する発砲音、爆発音、夜間の照明弾の発光などは、野生動物にとって大きな脅威となる。また、ヘリコプター、特にオスプレイの騒音や低周波音、排気ガスは、越境した場合や境界線付近を飛行するだけでも、自然遺産地域の森林と野生生物に大きな悪影響を与える可能性が高い。

オスプレイやヘリコプターは、訓練場外の高江などの集落や県道上空をしばしば低空飛行することから、同様に自然遺産地域にも侵入している可能性があるのではないかと懸念されている。

- 1) このような訓練場内から自然遺産地域および集落へ悪影響をおよぼす軍事訓練の境界越えを監視しているのか。
- 2) このような境界越えを防ぐための措置はとられないのか。
- 3) 訓練場の外部での騒音などのモニタリングはどのように実施されているか。
- 4) 直近1年間の騒音レベルについてデータを開示されたい。

3. 返還地の汚染および米軍廃棄物について

登録地には、2,793haの北部訓練場「返還地」が含まれている。1957年から米軍の訓練場として使われていた「返還地」は、「土砂汚染、水質公害、その他、汚染の可能性があり」と、日本の環境省は世界遺産推薦書(2019)の中で認めている。

また、「返還地」の多くの場所において、薬莖、空砲、不発弾、その他の米軍の廃棄物が未だに残されている。

- 1) 十分な予算をつけて、米軍廃棄物の撤去や環境の復元計画を実施することが必要だと考えるが、そのような措置はされないのか。
- 2) やんばるの森の米軍廃棄物の問題を調査し、情報発信を続けてきた蝶類学者の宮城秋乃さんが、米軍廃棄物を北部訓練場に駐留する米軍に渡そうとしたことで警察により家宅捜査を受け、書類送検された。宮城さんが行ったことは少量の廃棄物を米軍基地の前に並べただけであり、威力業務妨害とは無縁である。捜査・書類送検は不当である。日本政府は、むしろ問題提起を行った宮城秋乃さんに感謝をすべきではないか。

なお、私たちは、NGOとして世界遺産登録後のやんばるの森の保全と米軍基地の影響についてIUCNに報告を行うことを予定しており、その一環として政府の施策を確認したいと考えています。